

不知火(しらぬひ)

育成者：農林水産省果樹試験場 来歴：「清見」タンゴールと「中
口之津支場（長崎県南高来 野3号）ポンカンの交雑実
郡口之津町乙870） 生

特性

■栽培特性

樹勢はカラタチ台ではやや弱い。ウンシュウミカン、ナツミカンを中間台とした高接ぎ樹では弱～中程度である。樹勢を維持するため、カラタチ台の苗木では強勢台木の根接ぎを行ったり、甘夏等の強勢樹への高接ぎをする。さらに深耕や堆肥施用等の土壌管理を徹底することが必要である。樹姿は若木の時はやや直立性であるが、結果期になると開張する。枝梢は密生し、細く、短い。とげは樹勢が落ち着けは無くなる。葉はやや小さく、ポンカンと同程度である。葉は厚く、翼葉が比較的大きい。樹体の耐寒性はウンシュウミカンより弱く「清見」と同程度と思われる。

■果実特性

花はほとんどが単生であるが、総状花もある。花の大きさは「清見」、ポンカンより大きい。花弁は白色で5枚。花粉量は少ない。奇形花の発生が多い。無核果率が非常に高く、有核果も種子数が極めて少ない。単為結果性が強い。

果実は200～280gで、マンダリンタイプとしては大果である。果形は倒卵形から扁球形で、果形指数は100～120程度である。果形と果実の大きさに不揃いが多く、玉揃いは不良である。また、果梗部に三宝柑のようにネックが突出したのから、全くネックの認められないものまである。なお、ネックのない扁平果にはヘソの発生するものが多い。

果皮は黄橙色である。着色開始期は10月中旬で、完全着色期は12月上旬である。果皮の厚さは3.5～5mmで大果のわりに薄い。成熟果の果皮はやや粗い。剥皮は容易であり、ポンカン香があり、浮皮はほとんど認められない。果肉は橙色で、肉質は柔軟多汁である。じょうのうは極めて薄く柔らかい。

果汁の糖度は13～14％程度、場所によっては16％となるともあり、極めて高糖度である。酸は適熟期に1％程度になる。夏秋季に乾燥すると糖度は高くなるが、減酸が遅れる。熟期は2～3月で食味は極めて良好である。

■病虫害抵抗性

かいよう病、そうか病には両親と同様に強い。果皮の体質が弱く、夏秋季に乾燥した年は、貯蔵病害、水腐れ果やこ斑症果の発生が多くみられる。この水腐れ果の発生防止と特徴的なネック（デコ）を発生させ、また品質を高めるため、屋根掛けハウス、無加温ハウス等の施設化がすすめられている。

■地域適応性

熊本県をはじめ、愛媛県、広島県、鹿児島県等で、甘夏、ハッサク、ネーブルオレンジ、イヨカン、普通温州ミカン等から不知火への更新がさかんである。特に平成元年頃から急速に増殖しはじめ、平成6年度の生産では、全国で808ha、3,030tとなっており、なかでも熊本県は栽培面積が515haで、全国の65％と圧倒的に多い。

果実の耐寒性がウンシュウミカンより弱いため、成熟期である冬季が温暖で、年平均気温が16.5℃以上、収穫期までの最低気温が-3℃以下が長時間持続しないところに植栽する。

(松本亮司)